

学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">倉田 芳弥 【比較社会文化学専攻 平成15年度生 平成30年度再入学】</p>	要 旨
論文題目	<p style="text-align: center;">LINE の会話における相づちの研究 —日韓母語場面と日韓接触場面との比較から—</p>	<p>本論文は、近年急速に利用者の増加している文字による会話である LINE 会話に見られる相づちの特徴を、日本語母語場面、韓国語母語場面、日韓接触場面という 3 つの場面における LINE 会話の相づちの分析をとおして明らかにすることを目的とする。</p> <p>本論文は、4 つの研究から構成される。音声会話の多くの研究の分析の観点に依拠し、研究 1 では相づちの頻度について、研究 2 では相づちの表現形式について、研究 3 では相づちの機能について、研究 4 では相づちの送信方法について、それぞれ上記 3 場面について分析を行った。</p> <p>その結果、音声会話と同様、LINE の会話という文字を介した会話においても、日本語母語場面の相づちには共話的な特徴、韓国語母語場面には対話的な特徴が見られた。また、日韓接触場面においても、母語場面で見られた共話、対話という日本語母語場面、韓国語母語場面それぞれの会話のスタイルが維持され、また日本語母語話者と韓国語母語話者双方の調整が見られるなど、音声会話に類似した相づちの特徴が指摘された。一方で、相づちを単独で送信するか、あるいは相づちに実質的な発話を続けて送信するかなど、相づちの送信方法によって発話の宛先を区別するなど、送信システムに制約のある LINE 会話独自の相づちの特徴も明らかにされた。</p>
審査委員	<p>(主査) 教授 佐々木 泰子</p>	
	<p>教授 森山 新</p>	
	<p>准教授 伊藤 さとみ</p>	
	<p>講師 加納 なおみ</p>	
	<p>准教授 山本 綾 (昭和女子大学国際学部)</p>	